

<p>第 6 回 猪名川部会検討会（2003.9.22 開催）結果報告</p>	<p>2003.9.26 庶務発信</p>
<p>開催日時：2003年9月22日（月） 9：30～12：50 場 所：axビル 4階 アクスネット C・Dルーム 参加者数：委員 8名 河川管理者 14名</p>	
<p>1 決定事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月9日～12日くらいに、猪名川部会を開催する方向で調整する。 ・ 全委員を対象として予定されている整備内容シートへの意見募集について、猪名川部会委員は、少なくとも猪名川に関連する部分については意見を提出する。 ・ 整備内容シートについて、猪名川に関連する事業についての意見は猪名川部会にて集約を検討する。各委員から寄せられた意見を、まず池淵、田中（哲）、畑、本多、松本各委員が整理・集約して部会に提出する。 <p>2 審議の概要</p> <p>意見書とりまとめに向けた意見交換</p> <p>資料 2-1「猪名川部会とりまとめ（案）」をもとに意見交換が行われた。主な意見は、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 猪名川の狭窄部上流の浸水被害解消対策の目標を既往最大規模の降雨とするのは、過大ではないか。これから 20～30 年で実現できる範囲を想定すべきである。 猪名川部会としては、「現計画で目標としている降雨レベルについては再検討頂きたい」との意見になるのでは。この部会で具体的な降雨レベルを決めるのは難しい。具体的な目標値については治水部会の方で検討いただきたい。 ・ とりまとめ（案）は「狭窄部の開削は当面実施しない」としているが、委員間の考えには、「永遠に開削すべきでない」「場合によっては開削も視野にいれるべき」等隔たりがある。狭窄部の開削のために必要な下流部の堤防強化が完了するのは何年後になるのか。現在、堤防強化の検討委員会で工法等を検討しているため、その結論を待つことになる。（河川管理者） 20～30 年では終わらないのではないか。 開削が下流部にどの程度負荷を与えるかが問題。猪名川の場合、狭窄部の規模と下流の河道幅から考えて、大した負荷はかからないとの意見もある。その場合は、ダム の 代 替 案 として開削があり得るのかどうか。有り得るなら検討対象とすべき。 下流にどの程度の負荷がかかるのかは、通常の降雨ではなく壊滅的な被害を与えうる大降雨を考えるべきであり、負荷が小さいと考えることは無理ではないか。 狭窄部の開削については、提言したとおり「原則として狭窄部の開削はしない」との意見が主流だろう。それ以外の意見がある場合は、反対意見として付記するしかないのでは。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後のスケジュール等について話し合わせ、上記「1.決定事項」の通り決定がなされた。 <p style="text-align: right;">以上</p>	

このお知らせは委員の皆様にご会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」を参照下さい。